

平成30年度第1回 熊本市地域包括支援センター運営協議会会議要旨

- 1 日時 平成30年8月20日(月) 18時から
- 2 場所 本庁舎11階会議室
- 3 出席委員 秋野逸郎、石橋敏郎、川上賢蔵、空閑節子、小山登代子、坂本昌明、田中弥興、出口博明、柳楽雅子、本庄弘次、本尚美(敬称略)
- 4 議題 (1) 地域包括支援センターの運営状況及び評価について
(2) 平成30年度地域包括支援センターの重点的取組について(報告)

5 議事録等(要旨)

○会長選出

→ 全会一致で石橋委員を会長に選出。

○副会長選出

→ 石橋会長が本庄委員を指名し、全会一致で承認。

報告

＜地域包括支援センターの運営状況及び評価について事務局より説明＞

○副会長

地域により利用者差があるようだが、西4や南1の事業所数はわかるか。

○本日は資料を持ち合わせていない。

○委員

見守り事業の頻度はどうなのか。社協や自治会長・老人会長等周りに声掛けし、会議だけで終わらないように。

○委員

65歳以上の名簿をいただき、主に70歳以上が対象として民生委員とささえりあで平成23年より校区ごとに名簿をすべてチェックしながら行っている。

○委員

見守り事業は、もう少しオープンにして地域で見守ったほうが良いのでは？
私も民生委員の経験もあるが、見守り隊とか住民も巻き込んでやってほしい。

○委員

プライバシーの保護の面もあり、すべてを公表して行えるものでもないが、本人の了承を得られれば良いと思う。校区によって考え方にばらつきはあるかもしれない。

○委員

自己評価・行政評価はどのように行っているのか。

○事務局

まずは、地域包括支援センターに自己評価を行ってもらい、その後、区役所との面談により評価して、行政評価を出している。

○委員

地域包括支援センターは頑張っている。行政も支えてほしい。

○会長

評価は、回数だけでなく中身の評価してほしい。今回良かったのは、自己評価より区の評価が高かったことに、少し安心した。自己評価は謙虚なところほど低く評価する傾向にある。

○委員

実際に孤独死は家族と一緒に住んでいる方の風呂場での事故が多い。よって介護者教室というよりも、高齢者のリスクとか知識の教育をもっとしていただければ、風呂場での孤独死は減るのではなかろうか。孤独死には男女差があり、女性は80代だが男性は50歳代が多い。このことを踏まえても教育の啓発をして、孤独死をなくす方向に持っていてほしい。

○委員

自己評価の時期はいつか。3か所ほど新規のささえりあがあるがどのように対応したのか。

○事務局

自己評価を6月。ヒアリングを7月に実施。法人の変更があったささえりあは以前のささえりあが自己評価し、新しいささえりあがヒアリングを受け、各ささえりあの今後の方向性を区役所を通じて聞き取りをした。新しいささえりあについては、後方支援していきたい。

○委員

各ささえりあで差があると思うので、評価をフィードバックしてもらえたら良い。

○事務局

平成30年度の評価からは定量化するような評価を入れていく。また、本日の資料等はホームページに掲載する予定。

○会長

評価は個別に知らせてほしい。批判ではなく、今後のマイナス点を今後の改善目標としてほしい。

○委員

多忙なささえりあの仕事において、メンタルや過重労働の声は上がっていなかったのか。

○事務局

業務が多忙であるとの声は聞くので、後方支援していきたい。

○委員

現実には評価以上の仕事をされていると思うので、評価していただきたい。

評価の仕方は難しいが、問題解決度も配慮してほしい。現場の生の声、悩み・相談を載せてほしい。

○会長

生活支援コーディネーター専任を置くようになり、実質人員配置は足りているのか。

○事務局

人員配置は保健師・社会福祉士・主任ケアマネを高齢者人口に応じて配置しており、高齢者数が増加するに伴って増えることになる。

○会長

大変なのは介護職だけではないが、報酬については、福祉の全体的底上げが必要。

○事務局

委託料の見直しで人件費は少額ながら、値上げした。

○委員

ささえりあの生声も聞いてほしい。

<平成30年度地域包括支援センターの重点的取組について事務局より説明>

○会長

行政では限りがあるので、住民主体のやり方もひとつ。上手くいっているのか。

○事務局

生活支援サービスでは、今年度から生活コーディネーターを専任で設置しており、住民のニーズと資源をマッチングし、帯山では『お助け隊』を発足している事例もある。また、元気くらぶも新聞で報道された効果もあり増加している。

○委員

60歳代から元気くらぶをやりたいとの要望があり、ささえりあと相談し、明日から立ち上げる。健康な人だけでなく、病気療養中の人も参加させてあげたい。かかりつけ医に相談してやっていければと思う。地域の病院へも周知してほしい。

○委員

生活支援したいと思っている人もいるので、好事例を市の広報で載せてもらえれば、やりたい人のきっかけになるのではと思う。事業内容とこういう人を求めていると掲載するなどいろいろと周知してほしい。

○委員

自立支援型地域ケア会議について、地域住民は参加できないか。

○事務局

地域ケア会議のうち、課題検討型の地域ケア会議は個別の困難ケースへの対応を検討する場合に民生委員等の関係者に入ってもらうことがある一方で、自立支援型ケア会議は実際のケアマネジャーの事例に対して自立支援に向けたアプローチを専門職で検討するもので、専門性が高いものであり、住民が参加することは想定していない。

○委員

地域住民が困難事例を知ることで、自立支援に向けてのケア会議に参加することでどんなことで元気になるのかを知ることで、介護保険の相談の入り口になっていければと思う。

○委員

認知症家族の会では、困難事例はどこに相談をして良いかと尋ねられた場合、ささえりあを紹介するものの、その後の結果を聞いていないので、その後どうなっているのかと考える時がある。また、ささえりあのなかにも認知症家族の会やコールセンターを知らない方もお

られ、周知してほしい。

○委員

ささえりあでは認知症サポーター養成講座を実施しているが、サポーターをどう生かすのかを考える必要がある。

○委員

重点的取組については、地域にも周知してほしい。

○委員

まちづくりセンターとささえりあとの連携は。

○事務局

まちづくりセンターは、人や場所等の地域資源やニーズについて分野を超えて結びつけていくことを期待している。

市の職員であるが、専門職ではないため、地域課題をまちづくりセンターだけで解決できるものではなく、福祉面においては、ささえりあ等と連携し解決していくこととなる。

○会長

今後もささえりあの活動が今後も良い方向に向かうように議論していきたい。

本日の議事はこれで終了する。

○事務局

次回の運営協議会は3月を予定している。